令和３年度第１回千葉県がん教育推進協議会	資料2-2
令和3年9月10日(金)	

対象
医療者
がん経験者など

がん教育外部講師養成プロジェクト

がん教育外部講師のための

eラーニングができました！

なぜ今、がん教育なのでしょうか？

「がん」という病気を通じて、健康と命の大切さを育みます。

第３期がん対策推進基本計画（平成30年３月9日閣議決定）では、「がん予防」「がん医療の充実」「がんとの共生」を支える基盤の整備のひとつとして「がん教育、普及啓発」が挙げられています。がん教育の目的については、「①がんについて正しく理解することができるようにする②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする」となっています。

がん教育とはなんでしょうか？

がんについての正しい理解、がんと向きあう人々への理解、自他の健康と命の大切さについて学ぶための教育です

文部科学省の検討会によると「がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん経験者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育である」と定義されています。

がん教育の外部講師とは？

医師やがん経験者等の外部講師を活用することが推奨されています。

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容やがんを通して健康と命の大切さを考える教育を進めるに当たっては、医師やがん経験者等の外部講師を活用すべきではないか、などとする「学校におけるがん教育の在り方について」報告書（「がん教育」の在り方に関する検討会）を平成 27 年３月にもまとめられたことから、「がん教育」には外部講師との連携を推奨されているところです。

医療者がなぜ外部講師に？

医療者が伝えることで説得力が増します。

「がんについて正しく理解することができるようにする」。がん教育の目標のひとつです。児童生徒が正しい知識を身に付けるだけではなく、医療者が伝えることによりがんに対する誤解・差別や偏見が減り、がんだけではなく様々な病気についても理解を深め、ヘルスリテラシーの向上にも繋がります。

がん教育の対象は誰ですか？

小・中・高校生を対象にしています。

がん対策基本法では「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする」と明記されています。一般の大人の人やがん経験者に対しても教育や情報提供は必要ですが、本プロジェクトでは小・中・高校生を対象にしています。

外部講師（医療者）は、何を話せばいいのでしょうか？

医療者だからこそ伝えられることがあります。

がん教育を実施する上で、小学校では「がんを通じて健康と命の大切さを育むこと」を、中学校・高等学校では「科学的根拠に基づいた理解をすること」を主なねらいとしています。患者さんやご家族と日々向き合う医療者の声には説得力があり、教育の場でも非常に意義のあることです。

外部講師（がん経験者）は、何を話せばいいのでしょうか？

がん経験者だからこそ伝えられることがあります。

がん教育を実施する上で、がん経験者のメッセージは「健康や命の大切さ」をねらいとした場合はとくに、効果的だと言われています。がん経験者が自身の体験を伝えることで、子ども達がよりがん経験者や家族への理解を深められることは、非常に意義があります。

今回の「がん教育外部講師のためのｅラーニング」の対象は誰ですか？

医療者とがん経験者等が対象となります。

医療者…医師や看護師など、有資格者であれば現役でなくても可
がん経験者等…患者、家族、遺族。団体に所属していなくても可。

合わせて
がん教育における配慮事項ガイドライン
もお読みください

全国がん患者団体連合会のHPよりダウンロードできます

企画・発行：一般社団法人 全国がん患者団体連合会
協力：国立がん研究センター
編著：がん教育外部講師養成プロジェクト実行委員会

この教材は、ノバルティス ファーマ株式会社、アフラック生命保険株式会社のご支援で作成されました。
なお、内容に影響を与えるものではありません

eラーニング内容

■受講方法

全国がん患者団体連合会のホームページの
「がん教育外部講師のためのｅラーニング」
からお入りください。受講料は無料です。

http://zenganren.jp/

1

「がん教育の概要」

がん教育がなぜ始まったのか、文部科学省で決まっているがん教育の概要など

植田 誠治（聖心女子大学文学部教育学科教授・副学長補佐）

2

「外部講師に求められるもの」

がん教育における「外部講師（医療者、がん経験者）」に求められているもの

助友 裕子（日本女子体育大学体育学部スポーツ健康学科 教授）

3

「子どもたちに知っていてほしいがんの知識①」

がん教育における子どもたちに知っておいてほしい知識について

若尾 文彦（国立がん研究センターがん対策情報センター長）

4

「子どもたちに知っていてほしいがんの知識②」

がん教育における子どもたちに知っておいてほしい知識について

若尾 文彦（国立がん研究センターがん対策情報センター長）

5

「授業実施における具体的な心構え」

学校において子どもたちと接する際の注意点について

石井 健一（東京都立中野特別支援学校主幹教諭）

6

「子どもへの配慮事項と対応について」

がん教育において、子どもたちへ配慮すべき事項と対応について

副島 賢和（昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授）

7

「病と過ごす子どもたちについて」

がんの罹患をしているお子さんの現状や課題など

副島 賢和（昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授）

8 【医療者のみ受講単元】

「医療者としての心構え」

がん教育における外部講師を務める医療者への注意点について

林 和彦（東京女子医科大学化学療法・緩和ケア科 教授）

9 【がん経験者のみ受講単元】

「がん経験者としての心構え」

がん教育における外部講師を務めるがん経験者への注意点について

三好 綾（全国がん患者団体連合会 理事／NPO 法人がんサポートかごしま 理事長）

10 【参考教材・テストなし】

「がん教育」各地の取り組み例

全国各地の外部講師の取り組み（事前打ち合わせや研修、授業の実際等）について

松本 陽子（全国がん患者団体連合会 理事／NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長）

敬称略

お問い合わせ

一般社団法人 全国がん患者団体連合会

〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下 2-1-12 小西屋事務所 ✉ office@zenganren.jp